「きらりこの人」特集

まちの「こころ」を詠ょむ

日野町俳句同好会

まちの自然を思いながら大切に詠ょんでいます―。

うつろう四季に耳をかたむけながら趣味の句作を続ける「日野町俳句同好会」。その活動を取材しました。

日野町俳句同好会（川上文子代表）は、公民館活動のひとつとして、約25年前に町内の俳句愛好者によって結成されました。

現在、会員は講師の谷悦子さん（伯耆町）を含めて9人。毎月1回の俳句会を行っているほか、町内外での吟行（ぎんこう）を年に数回行っています。

自作の俳句を持ち寄って

4月25日、定例の俳句会が開発センターで開かれました。好天に恵まれたこの日、集まった会員は会が始まるまでの間、まちの話題や近況などのおしゃべりに花を咲かせます。

この俳句会は、会員自作の俳句をいくつか持ち寄り、そのなかで良いものを会の中で選び出し、講評を受けるというもの。

その選定作業の初めは、会員の俳句が短冊状に一句ずつ書いてある用紙をまとめ、集計用紙に書き写すこと。集計用紙は無記名のため、この段階では、誰がどの句を詠ょんだかは判りません。

こうして集まった約60句のなかから、会員が良いと思う10句を選び出し投票します。このとき、自作の句には投票することはできません。

そして各自の票を集計し、票の入った句が発表されると、初めてその作者が名乗り出るという仕組み。晴れやかさと照れ臭さの入り混じった、句作の喜びを感じる瞬間です。

持ち寄った俳句を手分けして集計

講師の谷さんから、高得点だった句についての講評や、仮名づかいなどの注意点についての指導があり、最後に、持ち寄ったお茶とお菓子で今日の感想、これからの予定などをにぎやかに語り合い、俳句会は終了しました。

会員の皆さんにお話をうかがってみました。

俳句を詠むうえでの苦労はなんですか？

「まさに四苦八苦（笑）。普段の生活の中で、ポコッと生まれるように出来あがることはありますが、やはりむずかしいですね。年齢のせいでしょうか、思いついてもすぐ忘れてしまうので、そのときすぐにメモをとるようにしています。」

俳句を詠むときに心がけていることはありますか？

「このまちの自然を大切に思い、常に季節の移り変わりを感じながら詠むようにしています。」

俳句を続けて良かったことはありますか？

「この俳句会でのおしゃべりでしょうか（笑）。真剣に句を選んでいるときでも時々脱線して季節の話題やお互いの近況を話したりするのが何より楽しいです。俳句を通して、こうして仲間と月1回集まるのが生きがいになっています。」

一句一句こころを込めて

【お知らせ】
俳句同好会では、現在会員を募集しています。俳句に興味のある方なら経験は問いません。お問合せは、代表　川上文子さん（根雨）まで。
（電話72－0399）

新コーナー

こころの散歩道

日野町俳句同好会　選

初音聞く全身耳にしてをりぬ　安達つるゑ
訪ねきて佛の慈顔花の寺　荒木　習子
大山の名残惜しくも竿の雪　勝瀬　京子
ベンガラてふ赤き町並花の雨　金川　昭子
川風に黄を広げたる濃山吹（こやまぶき）　川上　文子
弁柄（べんがら）の褪せし軒並み花の冷　久城　霞渓
菜の花や富山の薬屋来べき頃　谷　悦子
器選り佛と分つ木の芽和　徳本千鶴子
海おぼろ漁火互に応へ合ふ　真壁富貴枝

（五十音順）

このコーナーでは、俳句同好会の皆さんの俳句を、俳句会で選ばれたものを中心に毎月紹介していきます。